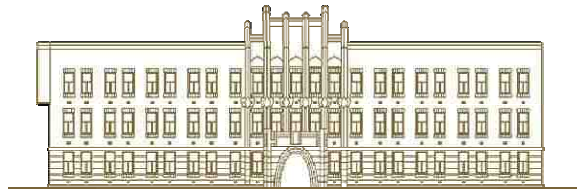


平成29（2017）年度

# 事業計画書



Ver 1.0

2017年3月  
学校法人 四條畷学園

## 目 次

平成 29 (2017) 年度事業計画の策定にあたって	2
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ	4
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方	5
中期計画の骨子	7
事業計画	
法人本部	8
四條畷学園大学	
リハビリテーション学部	12
看護学部	17
四條畷学園短期大学	20
四條畷学園高等学校	24
四條畷学園中学校	30
四條畷学園小学校	35
四條畷学園大学附属幼稚園	41
主な新規事業計画	45

## 平成 29 年度事業計画書の策定にあたって

---

四條畷学園は平成 28 年（2016 年）4 月、創立 90 周年を迎えることができました。これもひとえに、創立から今日に至るまで温かく見守り学園を支えていただきました諸先輩をはじめ関係各位のご尽力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

昨年度は 90 周年事業として 4 月に「四條畷学園創立 90 周年記念誌」を発行し同時に全教職員、在学生、在校生向けに「四條畷学園建学の思い」を配布しました。四條畷学園の「建学の精神」、「教育理念」、「教育方針」について改めて理解を深めていただけたことと思います。記念誌には、学園の歴史が歩んできた道のりが決して平坦なものばかりではなかったこと、他学に先駆けて新しい事業にチャレンジしてきたことなど学園 100 周年に向けて参考とすべき歴史が書かれています。先人のご苦勞、ご努力に改めて敬意を表すると共に 100 周年に向けてしっかりと歩みを進めて参ります。

90 周年記念行事では、ザ・シンフォニーホールにおける小中高吹奏楽部のコンサート、いずみホールでの音楽教室による演奏会、講演会などを盛大に行うことができました。特に全学同窓会の催しであるホームカミングデーには教職員も含め 700 人を超える同窓生の皆様に参加していただきました。改めて学園同窓会のパワーを身近に感じた次第です。

また昨年度、少子高齢化が進み私学経営がますます厳しくなっていくことを見据え、四條畷学園が将来に向けて持続的に発展をしていくことを目指し、学校法人四條畷学園長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan を策定し、アクションプランをまとめました。教職員一人ひとりが 90 周年を機に発行した 90 周年記念誌、小冊子なども参考に、改めて「建学の精神」、「教育理念」、「教育方針」をしっかりと理解し、自分のものとして実践していくことにより長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan を達成したいと考えています。

この長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan は「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」の二つの視点からまとめています。募集力を維持・強化するためには何より教育の質そのものを高める必要があります。「一生懸命教えている」ことに自己満足せず、それが学生や生徒に伝わっているか、保護者や彼らの出身学校、近隣の人々など外部の方々に伝わっているかを意識し常に自身を振り返ることが肝要です。それが結果として募集力につながります。また募集力の維持・強化が財務基盤の安定につながることは言うまでもありません。

グローバル化や少子高齢化などの社会構造の急激な変化や、AI(人工知能)や IoT(物のインターネット)の活用により産業構造を大きく変換しようとする取り組みである「第 4 次産業革命」の進展により、我が国は大きく変わろうとしています。10~20 年後には日本の労働人口の約 49%が AI やロボット等に代替できるようになる可能性が高いと言われています。

こうした時代の変化を見据え、文部科学省は高大接続改革・大学教育改革などの大学改革をはじめとして教育改革を進めようとしています。

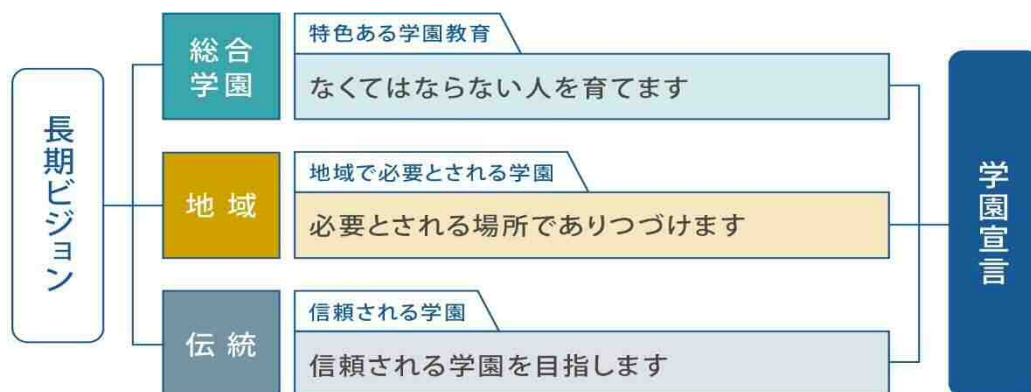
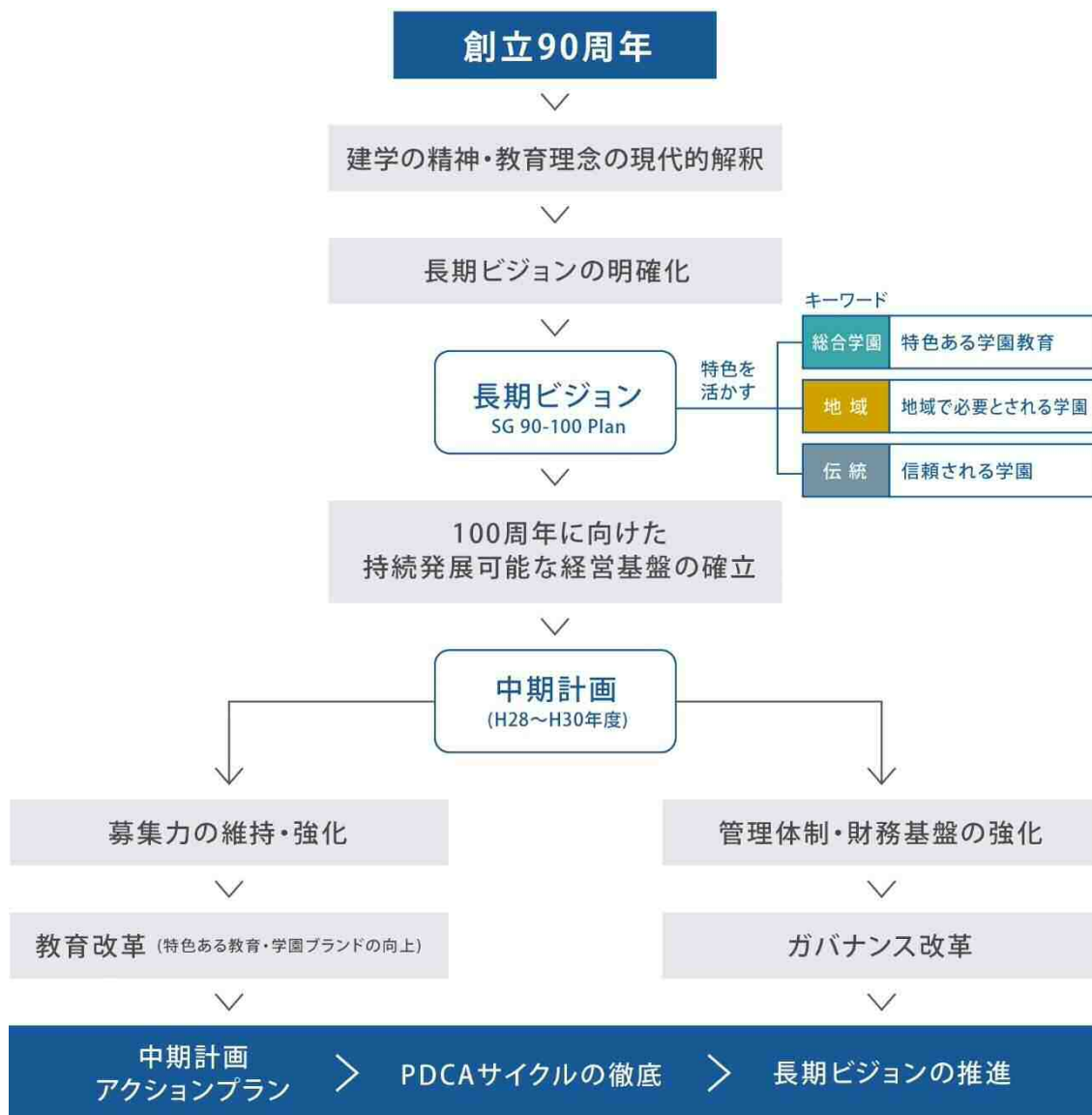
四條畷学園が100周年さらにその先まで発展し続けるためには、こうした時代の変化を見据え不断の改革を行っていくことが必要です。まさに「最も強いものが生き残るのではなく、変化に対応できるものだけが生き残る」こととなります。長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan、アクションプランをPDCA サイクルの中で回していくことが生き残る道であります。

長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan の初年度にあたる昨年度は予算制度の精緻化や事務職員人事考課制度の導入、大学におけるIR体制の整備、広報体制の整備など成果が見え始めた項目がある反面、財務面や募集力の面など課題を残した項目も多くありました。今年度は長期ビジョン・中期計画 SG-90-100 Plan の2年目にあたります。各校園及び法人本部がまとめたアクションプランを着実に実行することにより長期ビジョン・中期計画 SG 90-100 Plan の達成を図って参ります。

私学を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、この事業計画を机上の空論に終わらせることなく着実に実施し、成果上げていくことが持続的な発展につながる道であります。改めて教職員一同気を引き締めて日々の活動に取り組んでいく所存でございます。

学校法人四條畷学園  
理事長 川崎 博司

## 長期ビジョン・中期計画の全体イメージ

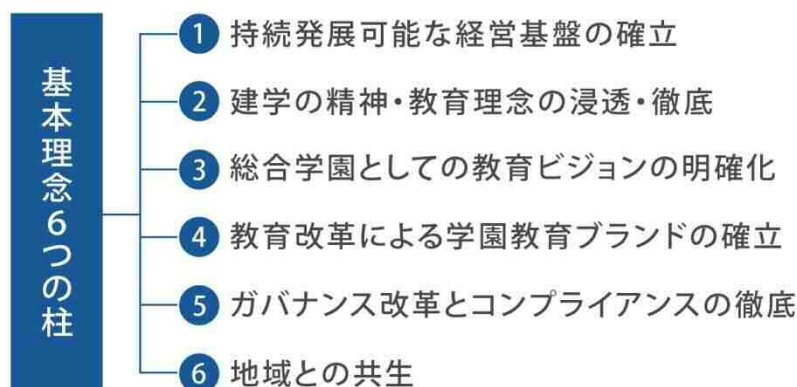


学校法人 **四條畷学園**

# 長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

## 1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいいかたちで迎えられるよう六つの基本理念を設定して検討を進めました。



### ① 持続発展可能な経営基盤の確立

100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

### ② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

### ③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわからない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。

### ④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を重視します。

### ⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。

### ⑥ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

## 2. 長期ビジョンの基本的考え方

### **【特色ある学園教育】**

- 総合学園としての教育ビジョンは必ずしも統一されたものではありませんが、学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う質の高い効果的な教育すなわちアクティブラーニング(文科省)」と「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

### **【地域で必要とされる学園】**

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

### **【信頼される学園】**

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。

## 中期計画の骨子

### 1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は平成28年度～平成30年度の3年間になります。平成30年度は看護学部の完成年度であり、数値計画としては看護学部設置申請時に文科省に提出した事業計画を基本に、足もとの状況を踏まえて精緻化を図り、修正を加えて中期計画としました。



### 2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である100周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

#### 共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

### 3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」に直結する「特色ある教育・学園ブランドの向上」を重要テーマとします。ガバナンス改革については平成29年度の大学認証評価受審対応と並行して見直しを行い、体制整備を図っていきます。

#### 展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革



No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1) SG90-100Plan（長期ビジョン）を推進します。 創立 90 周年を機に策定した長期ビジョン SG90-100Plan の継続的な推進と各校園 プロジェクトの進捗管理を実施します。
		(2) 大学認証評価受審準備体制を強化します。 平成 29 年度の大学認証評価受審準備体制を構築し、強化します。
2	教育改革サポート	(1) 教育内容・水準、研究環境・基盤を充実し、整備します。 ア「教育ビジョン」を明確化します。 イ各校園の活性化に対する取組を支援します。 ウ各校園間の連携を一層強化します。 エ自己研鑽支援制度等研修体制を継続し、整備します。 オ研究図書等の充実を図ります。 カ機関リポジトリを充実します。
3	財務	(1) 学生生徒等納付金の増収を図ります。 ア戦略的授業料体系を検討します。 校園別学費の改定を検討します。 イ学生確保のための奨学金を戦略的に活用します。 (ア) 奨学金支給増に向けた規程等を整備します。 (イ) 第 3 号基本金の計画的積極的積み増しに着手します。
		(2) 外部資金導入等他の収入の恒常化を図ります。 ア競争的補助金を積極的に確保します。 「構想型補助金」(大学)獲得に向けて体制整備・特別補助申請項目の点検、受 給目標項目の設定を実施します。 イ寄付金を戦略的に確保し、寄付金の受入態勢を整備、強化します。 寄付金募集活動を検討、実施します。 ウ多様な外部収入を検討します。 (ア) 既存事業の活性化策を検討、実施します。 (イ) 新規事業の実施を検討します。
		(3) 人件費比率を抑制します。 ア人件費比率を適正化します。 新人事制度を検討、実施します。

No	施策種類	事業計画
		<p>(4) 経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持を図ります。</p> <p>ア 財務体質の強化、予算システムの整備、財務管理の徹底、アカウンタビリティのあり方の検討を実施します。</p> <p>イ 予算制度の精緻化、決裁権限の見直しと権限委譲の促進を図ります。</p> <p>ロ 財務情報の発信方法を見直します。</p> <p>ハ コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化を図ります。</p> <p>ニ 部門別予算管理を精緻化します。</p> <p>ホ 経費を削減します。</p> <p>ヘ 経費削減マイルストーンを醸成します。</p> <p>ヘ 経費コントロール手法を検討し、実施します。</p>
4	教職員の育成	<p>(1) 教職員人材を育成します。</p> <p>ア 「教職協業」の考え方を定着させます。</p> <p>教員と事務職員の交流の機会設定によりコミュニケーションを強化します。</p> <p>イ FD 活動を実施します。</p> <p>他大学・本学の状況調査、アサート実施、FD 活動内容の再検討を行います。</p> <p>ウ SD 活動を実施します。</p> <p>SD 検討委員会の設置、指名研修制度の実施等を行います。</p>
5	人事制度全般の見直し・整備	<p>(1) 教職員の定員管理を実施します。</p> <p>ア 教職員の定員を管理します。</p> <p>採用計画を策定し、各校園の定員を再確認します。</p> <p>イ 年齢構成の適正化を図ります。</p> <p>予算制度を精緻化し、併せ人員計画を検討します。</p> <p>(2) 教職員の能力開発の仕組みを検討します。</p> <p>ア 働きがいのある職場を実現します。</p> <p>新人事制度の中で実施します。</p> <p>(3) 給与体系全般を見直します。</p> <p>ア 給与制度を改革します。</p> <p>事務職員の評価制度を本実施へ移行します。</p> <p>イ 教職員の積極性を引き出す評価制度の導入を検討します。</p> <p>教員の人事制度を検討します。</p>

No	施策種類	事業計画
6	組織・権限	(1) コブライアンス・ガバナンスを強化します。 ア 理事会・評議員会機能を強化します。 各理事機能の充実、強化、アクションプラン課題毎の担当理事任命の検討を行います。 イ 教学ガバナンスを強化します。 各理事機能の充実、強化、アクションプラン課題毎の担当理事任命の検討を行います。
		(2) 内部統制の強化・リスク管理機能を強化します。 ア 本部組織を見直し、整備します。 イ 監事機能、内部監査機能を強化します。
		(3) 意思決定の迅速化を図ります。 ア 意思決定を迅速化します。 イ 権限を明確化します。 ウ 大学・短大事務組織の一元化を図ります。 エ 業務を根本的に見直します。
7	広報	(1) 戦略的広報体制を確立・展開します。 ア 本学のブランド構築・向上、認知度向上、オープンキャンパスの戦略的実施、OCWの実施を行います。 イ 学内情報の集約化体制を整備します。 ウ 学内情報を学外へ効果的に発信します。 エ 全学広報運営委員会(仮称)の設置を検討します。
		(2) 情報公開を推進します。 ア 経営情報・教育情報を積極的に公開します。 WEBサイトの充実、IRの充実、ヒアリング制度の実施を行います。
8	その他	(1) 外部評価機関を活用します。 公益財団法人日本高等教育評価機構、一般財団法人短期大学基準協会等の認証評価結果を活用します。
		(2) 施設の適切な管理を実施します。 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定を実施します。
		(3) 危機管理と防災対策を強化します。 ア 危機管理マニュアルの精緻化、教職員への徹底を図ります。 イ 避難訓練を実施します。
		(4) キャンパスを総合的に整備します。 ア 大東市都市計画に基づき小学校・幼稚園のフル移転計画を策定します。 イ 小学校の移転計画に基づき校舎等の再配置計画を策定します。

No	施策種類	事業計画
		<p>(5) 社会貢献・文化活動を推進します。</p> <p>ア 各校園の研究・活動成果の地域への還元を推進します。</p> <p>大学COC計画を実施します。</p> <p>イ 各校園のボランティア活動を支援します。</p> <p>ボランティア活動を活性化します。</p>
		<p>(6) 同窓会等との連携を強化します。</p> <p>同窓会活動を活性化します。</p>

## 大学 リハビリテーション学部

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1) 建学の精神、教育理念の浸透を図ります。 各学年のオリエンテーションやガイダンスにおいて、周知徹底します。</p> <p>(2) 大学機関別認証評価へ対応します。 認証評価受審に備え、万全の準備を行い、基準別適合を獲得します。</p> <p>(3) 入学定員を確保します。 リハビリテーション学部は 80 名(PT:40 名、OT:40 名)を確保します。</p> <p>(4) 大学のブランドを構築します。 ア 学部横断の PT を作り、大学のブランド戦略を構築し実行します。 イ 総合研究所の提供機能(インバウンド機能、アウトバウンド機能、サポート機能等)のコンセプトを固めます。また、地域包括ケアシステム構築の対外窓口として位置付けます。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1) 新カリキュラムポリシーを適用します。 新カリキュラムポリシーに則り、各カリキュラムを検討し、必要に応じて修正手続きを進めます。</p> <p>(2) 医療人として必要な教養・倫理性・人間力と専門性・技術を兼ね備えた人材を育成します。 ア 思考力、判断力、表現力、主体性を持ち協働して学ぶ能力を育成するため、教養、基礎科目の充実を検討します。 イ 人的資源の有効活用や教員・学生の学部間交流を促すため「教養教育検討会議」で教養教育の在り方検討を継続します。 ウ 専門的知識や技術を効果的に修得し、臨床対応力のある人材を育成します。 エ 国家資格を取得します。</p> <p>(3) FD 活動の拡充と教員教育力の向上を図ります。 ア 前後期に、新方式の「授業評価アンケート」の結果分析により、問題点を洗い出して対策を立案、PDCA サイクルを回し、授業内容を継続的に改善します。 イ 高等教育の最先端事例に詳しい外部講師による FD 研修会の定期的開催や外部 FD 研修への積極的参加と情報共有化により、「教育力」の向上を図ります。 ウ 毎年度末、学部長と専攻長を中心として、非常勤講師を含む全教員の教育力の確認と助言を行い、教育水準の改善と標準化を図ります。</p> <p>(4) 学生の学業向上を支援します。 ア 新入学生と保護者向けに、「入学時の不安・ストレス等に関するアンケート」(四條畷学園臨床心理研究所(ICP)と協力)を実施し、個別指導を行い、学生生活不適合や学業成績不振による退学防止につなげます。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>イ 中途退学者数を削減するため、GPA 推移の経緯や落とすと後年負担が大きくなる必須科目の特定により、中途脱落を事前に予知できるアラム等の仕組みを構築します。</p> <p>ウ CAP 制を導入し、更にナバリグとカキラムツツの導入を検討します。</p> <p>(5) 基礎学力を強化します。</p> <p>新外ミッションホリで期待された学力を持って入学できるよう入学前教育として「なわてトリル」を活用する。また、入学予定者の学力格差を考慮した科目の導入も検討します。</p>
3	研究活動の活性化	<p>(1) 創立時に導入した研究機器が経年劣化や技術革新による更新時期を迎えていることから、本学園財政事情を勘案した合理的な更新計画を策定します。</p> <p>(2) 各教員が研究成果を学会や主要雑誌に積極的に発表し、自身の研究業績の蓄積だけでなく、研究機関としての本学レベルアップの向上を図り、引いては、高等教育機関としてのブランド力向上につなげます。</p> <p>(3) 外部の競争的研究資金導入に、引き続き積極的に挑戦するとともに、上位ランキングでの不採択者に対する支援等を検討します。</p> <p>(4) スポーツ活動相談・指導室の整備・運用を検討します。</p>
4	教育・研究基盤の整備	<p>(1) 学内教育環境を整備します。</p> <p>ア Word を使ったペーパー作成、Power Point でのプレゼンテーション資料作成、Excel を使った分析等に関連したパソコン指導(Q&amp;A)の時間を拡大し、学生の利便性を高めます。</p> <p>イ 留年のきっかけとなる可能性のある科目の授業映像の UNIPA 配信の対象を「解剖学」のみから「運動学」「評価学」「疾患治療学(OT)」「運動療法学(PT)」に拡大できないか検討します。</p> <p>ウ 学修支援室の整備・運用を検討します。</p> <p>(2) 図書館利用環境を整備します。</p> <p>ア 新たに整備した図書館機能のメリットや利用方法を学生や教員に説明し、利用度を高めます。</p> <p>イ 電子書籍を中心とした蔵書を充実し、また、オンライン教材として利用に適するよう環境を整備します。</p> <p>ウ 「機関誌トリル」を活用した「学術論文」や「研究成果」等の学術情報発信を推進します。</p> <p>(3) 学舎を整備します。</p> <p>ア WiFi ルーターの増加による ICT 環境の改善や演習室にグループワークやディスカッションに適した電子ボード設置、リアル教育や能力別学修に効果的な「e - Learning」を拡大できるパソコン数の増加等 ICT 環境を整備します。</p> <p>イ 「学生の声ボックス」を設置し、学生からの意見、要望を聴取し、学舎整備に活用します。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(4) 補助金確保により学修環境を整備します。 私立大学等改革総合支援事業「タイプ1」を早期に獲得できるよう整備します。</p>
5	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1) 市民公開講座を開催します。 地域包括ケアシステム、高齢者医療、生活習慣病等の地域住民の関心が高いテーマにフォーカスしたリハビリテーション学部と看護学部のジョイントによる講座を半年ごとに開催します。</p> <p>(2) 四條畷市と連携します。 ア「なわて ふれあい商工祭り」に引き続き参加します。 イ 四條畷市とのさらなる連携を検討します。</p> <p>(3) 大東市と連携します。 「介助犬のひろば in 大東」での身体障害者補助犬の啓発活動への教員参加とダブルミーティング事業へ学生ボランティアの派遣等を行います。</p> <p>(4) 模擬授業、サマセミナを実施します。 ア 大阪府下の高校を中心に模擬授業を積極的に実施します。(約 20 校)。 イ 大学コンソーシアムとの連携により、中学生向けセミナーに参加します。(川 1 名、看護 1 名)。</p> <p>(5) 施設を開放します。 日本理学療法士協会、大阪府理学療法士協会、日本作業療法士協会、大阪府作業療法士協会に会場提供し、他機関から要請があれば積極的に対応します。</p>
6	進路支援・就職支援・卒業生支援	<p>(1) 学生の進路を支援します。 少人数クラス編成、担任制、ア「バグ」制、四條畷学園臨床心理研究所(L.C.P)、バグの連動を高め、より効果的な学生支援を行います。</p> <p>(2) 就職の支援を強化します。 ア 国家試験対策講座の内容を従来の集合講座中心から能力別個別対応の要素が高い対策講座を検討します。 イ 1,2年生を対象として、社会人として必要な、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、自ら学び続ける能力の重要性を意識させる就職セミナー等を開催します。</p> <p>(3) 卒業生を支援します。 ア 国家試験を再受験する卒業生に対して、研究生制度を設けており、基礎講座、集中講座の受講や、個別指導等の受験対策、図書館等大学施設の利用、模試への参加、出願手続きの支援など、該当者を支援します。 イ 卒業生向け「学術講演会」や大学独自のホームcomingイベントの開催を定例化し、卒業生の組織を強化します。</p>

No	施策種類	事業計画
7	学生募集対策	<p>(1) 学生募集力を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 本学ホームページ、Web、メール等の媒体をすべて活用し、オープンキャンパス開催日や内容の高校生に対する事前周知を徹底します。</li> <li>イ 本学ホームページは週に1件以上の記事掲載を原則とし、閲覧頻度が高まるように誘導します。また、平成30年度の再リニューアルの必要性を検討します。</li> <li>ウ オープンキャンパスの内容充実やアンケート手法の導入により、オープンキャンパス参加の出願歩留まり率を向上させます。</li> <li>エ 教職員による高校への訪問頻度だけでなく、キャンパスへの面談精度、説明内容、資料等を向上し、認知度をアップします。</li> <li>オ オープンキャンパスに替わるウィークエンドキャンパスイベントを継続開催し、受験希望者の要望に沿うような情報提供を強化します。</li> <li>カ 学園中学、高校との高大連携を強化し、内部進学数の増加を図ります。</li> </ul> <p>(2) 入試方法を見直しし、改善します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 受験生の利便性と本学事務の効率化の観点から「ネット出願」の採用を検討します。</li> <li>イ 受験生が減少している指定校入試、AO入試、センター入試利用を中心として、競合他校の実施状況を分析し、入試日程や方法等の改善策を検討します。</li> </ul>
8	災害対策等への取組	<p>(1) コンプライアンス管理体制を整備します。</p> <p>教職員が研究不正に関するe-Learningを定期的に受講し認識を新たにするなど、継続的にコンプライアンス教育を実施します。</p> <p>(2) リスク管理体制を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 業務ミスやトラブルに係るヒヤリハット報告の励行により、問題事象のリスクの所在や防止方法を共有し、リスク管理体制を強化します。</li> <li>イ 本部と連携して、サイバー攻撃やウイルス感染リスクに対する教職員のマインドを高めます。</li> </ul> <p>(3) 危機管理体制を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 防災訓練(含むAED訓練)を実施し、有効性について振り返りを行い、必要に応じてマニュアルを改定します。</li> <li>イ 裏山の崖崩れに備えた2方向避難経路や近隣住民との連携を含む「防災マニュアル」に改定します。</li> <li>ウ 本学は受動喫煙防止のため「全面禁煙宣言」しており、禁煙セミナーによる啓発等により、大学関係者の禁煙を推進します。</li> <li>エ 防犯キャンパスネットワーク大阪(大阪府警)の定期研修会に参加するなど、警察署との連携を強化します。</li> </ul>



No	施策種類	事業計画
9	その他	<p>(1) 事務を効率化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 事務部門では、自由な意見交換により、前例にとらわれず、事務改善を継続する加力-を根付かせます。</li> <li>イ 属人的な業務分担を排除し、全ての業務を複数の事務員が担当できる体制を構築します。</li> </ul> <p>(2) SD活動を推進します。</p> <p>教職員が外部のSD啓発研修会等に積極的に参加し、ヒアリングした最新情報を教職員間で共有し、事務プロセスの改善につなげます。</p> <p>(3) 大学2学部、短大との相互連携を進め、相乗効果を加速化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 相互情報提供を密にし、業務改善を効率化します。</li> <li>イ 共用施設の効率的な共同使用推進や、規程や業務方法の共通化により、経営資源の有効活用を図ります。</li> <li>ウ 教職員の勉強会や研修の共通化により、問題認識や取り組みを統一します。</li> </ul>

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1) 建学の精神、教育理念の浸透を図ります。 各学年のリエゾンやががッソにおいて、周知徹底します。
		(2) 平成 29 年度日本高等教育評価機構による認証評価受審に向けて活動します。 ア 認証評価項目に基づく評価書を整備します。 イ 認証評価受審実地調査に向けて準備します。 ウ 学園・大学・学部各種委員会を整備します。 エ 各種委員会報告会を開催します。(年度末) オ 教員自己評価ならびに学部長面談を実施します。(年度末)
		(3) ブランド力を強化します。 医療系の大学としての特色を強化します。
		(4) 教員組織体制を整備します。 ア 教員公募により人材を確保します。 イ 非常勤講師を有効活用します。 ウ 実習助手を確保します。
		(5) 看護学部教育・研究・実践センター(仮称)設置に向けて準備します。 ア 学部にてワーキンググループを発足します。 イ センター構想案を策定します。
		(6) 国家試験対策支援室を設立します。 非常勤専従スタッフによる国家試験対策を実施します。
2	教育・研究の充実	(1) 看護学における各専門領域間の連携を図ります。 FD 研修会で各専門領域の教育内容を共有します。
		(2) 各科目の授業到達目標とディベロップメントを明確化します。 カリキュラムマップに基づき、DP 達成のために各授業科目の到達目標と対比します。
		(3) 教育力を強化します。 ア 教員個々人の教育力アップを支援します。(研修会、教員相互の授業参画等) イ 学生による授業評価への対応を行います。(UNIPA 上での回答およびフィードバックへ到達目標を記入)
		(4) 学修支援対策を強化します。 ア 1 年次対象の補習週間を開催します。(後期定期試験終了後) イ 2 年次対象の前期末・後期末補習を実施します。

No	施策種類	事業計画
		(5) 研究活動を推進します。 ア 競争的研究資金獲得を推進します。 イ 研究倫理委員会への申請を推進します。 ウ 看護学部研究誌創刊号を発行します。 エ 外部査読の導入により研究の質を担保します。
3	教育・研究環境の充実	(1) 学習環境を整備します。 ア 図書館利用を推進します。(閉館時間等) イ 実習グループ用小教室を確保します。 (2) 臨地実習施設を開拓し、連携を強化します。 ア 臨地実習施設(管理者)との連絡協議会を開催します。 イ 臨地実習施設(各病棟単位)との連絡調整会を実施します。 ウ 新規の臨地実習施設を開拓します。 (3) 教育ボランティア登録者を活用します。 ア ボランティア登録者数の増加を図ります。 イ 授業ならびに自己トレーニングでの活用を推進します。 (4) 実験室を確保します。 総合研究所の策定内で検討します。 (5) 学舎修繕等を実施します。 ア 破損箇所の修繕および補強を実施します。 イ 男子ロッカ室を拡大します。 ウ 学年進行に伴うラジ等の食事・休憩場所を確保します。
4	学生支援	(1) 学生生活支援を強化します。 ア 入学時の不安・ストレス等に関するアンケートを実施します。 イ 学生満足度調査を実施します。(1年次対象、年度末実施) ウ アトバイザグループごとの学生代表と学部長及び学科長との懇談会を実施します。 エ 保護者・保証人対象の教育懇談会を実施します。 (2) キャリア教育を推進します。 ア 保健師、助産師に関する情報を提供します。(進学相談含む) イ ライフバランスのイメージを促進します。 (3) 国家試験支援を強化します。 ア 各アトバイザグループの学習委員(学生)と国家試験対策委員会との協働による対策を実施します。 イ 模擬試験を実施し、対応を強化します。

No	施策種類	事業計画
		(4) 休学者への対応を強化します。 ア ICP とアドバイザー-教員との連携を図ります。 イ GPA 低値の学生への早期介入を実施します。 ウ 遅刻や欠席が目立った学生への個別対応を実施します。 エ 保護者とアドバイザー-教員の連携を図ります。
5	社会貢献・文化活動の推進	(1) 地域連携・貢献事業を推進します。 ア シリーズ「生活習慣のすすめ第三弾」市民公開講座を実施します。(3年計画) イ 大阪府社会福祉事業団地域公益事業「いっしょに笑顔」における健康教室を担当します。(1回/月) ウ 大東・四條畷医療・介護連携推進研修会と連携し、協力します。 エ 実習施設に対して教員を講師として派遣します。 (2) 中学、高校との連携を推進します。 ア 大学「ソラ」大阪との連携による事業を担当します。(大阪中学生「マセキ」および新事業) イ 四條畷学園高校との高大連携活動を推進します。
6	入試・広報強化	(1) 安定した入学定員を確保します。 ア 重点校への出前講義を実施します。 イ 高校の低学年に対して看護学部をPRします。 ウ HP で教員による出前講義のテーマをアピールします。 (2) 学生募集戦略を強化します。 ア 資料請求等のあった高校生へのDM対応を強化します。 イ 入学生の入試別 GPA、受験実績等のデータに基づく重点校の選別を実施します。 ウ HP の内容充実とリアルタイムな情報発信に努めます。 エ 受験実績のある高校を中心とした高校訪問を強化します。 オ OC プログラムの学生参画を図ります。(体験型授業の導入) カ WCV を継続的に実施します。 キ 業者開催事業「夢光」等へ参加します。 (3) 入試方法を見直します。 ア 入試科目(理科)の見直しを検討します。 イ 指定校推薦の見直しを検討します。
7	その他	(1) 災害対策に取り組めます。 ア 学部内防災ルールを強化します。 イ 幼稚園と合同の訓練を実施します。

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1) 効果的な募集活動により、募集定員 180 名(保育 100 名、ライ 80 名)以上の入学者を安定的に確保します。</p> <p>(2)</p> <p><b>【ライデザイン総合学科】</b> 平成 30 年度入学生に対する募集活動や広報活動等を通じて、受験生・保護者、および高校教員に対し、カリキュラム再構築の意義(※)、内容、レベル等々の周知を図ります。 ※学びの意識とともに将来の就職までの意識を持った入学者を増やし、学ぶ喜びを体感させ、より早い段階から進路活動のサポートを行う等、教育の質の向上に努めます。</p> <p><b>【ライデザイン総合学科 総合福祉コース】</b> 全在学生の卒業、進路確定に注力するとともに、当該コースに関連した設備等の経営資源の有効活用を検討します。</p> <p>(3) 保育学科は、ピアノのマンツーマン指導等の「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の特色を生かし、魅力ある教育をめざし、競合他校との差別化を図ります。</p> <p>(4) アクティブラーニング等の教育ツールを積極的な活用やコミュニケーション能力の向上に努め、主体的行動ができる人材を育成します。</p> <p>(5) 事務部門は、コンプライアンス遵守を図るとともに、人員再配置による多能化や業務の効率化、業務ミスやヒヤリハット事例等を共有し、リスク管理を強化します。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p><b>【共通】</b></p> <p>(1) 学生の満足度が高く、質の高い教育を効果的に提供します。</p> <p>ア 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短大への期待度を把握することで、入学直後の指導を効果的に行います。</p> <p>イ 到達目標達成評価表(ルーブリック評価法)を導入し、到達度の低い教科目の内容(授業方法やカリキュラム)を効果的に改善します。</p> <p>ウ 改訂版「授業評価アンケート」の導入、結果を踏まえた PDCA を浸透することで、「授業の質の向上」を図ります。</p> <p>(2) 休学・退学可能性のある学生の早期発見、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休・退学者の発生を防止します。</p> <p>(3) 「文科省が「伴う」に沿った短期大学における 3 つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミニストレーションポリシー)を点検し、整備に努めます。</p>

No	施策種類	事業計画
2	教育内容・水準の充実	<p><b>【保育学科】</b></p> <p>(4) 本学の特色である「音楽教育」と「美術教育」を HP や学校説明会等で分かりやすく説明し、ブランド力を高めます。</p> <p>(5) 「ステージアツキ」を正規科目として検討し、保育者にとって必要な教養・人間性教育を充実させます。</p> <p>(6) 総合福祉コースの教員との協働による「保育」と「介護」の連携を視野に入れた本学独自の保育学教育の在り方を検討します。</p> <p>(7) 実習先との連携を強化します。</p> <p>ア 連携強化につながる「指定園方式」を推進します。</p> <p>イ 前年の評価表実績に基づき、事前・事後学習の内容を改善します。</p> <p>ウ 実習先との意見・情報交換の機会を増やし実習内容の一層の充実を図ります。</p> <p><b>【デザイン総合学科】</b>～現実社会に対応し生き抜く力を育成します。</p> <p>(8) 挨拶・マナーに始まり、自分で考え、能動的で責任感を持ち、他者と協働し、社会に参画できる「明るく、元気」な人材を育成するため教職員が一体となって取組みます。</p> <p>(9) 社会や学生のニーズを的確にとらえ、カリキュラム、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各学科と就職先・キャリアパスの関連を具体的に例示し、主体的にキャリアプランニング(将来の生活設計)を判断できる能力を高めます。</p> <p>(10) 「課題発見・対応能力」を高めるため、「アクティブラーニング」の導入を一層積極化するとともに、授業内容を充実させます。</p> <p>そのため、各教員のスキルアップ、各学生の自己学習を高めるため個々の能力に応じた指導「アウトプット」重視の授業の浸透、評価方法等の課題を解決していきます。</p> <p><b>【総合福祉コース】</b></p> <p>(11) 各学生にきめ細かい学習指導、実習支援、就職支援を徹底し、全在籍学生の卒業・就職等を最優先課題とする。</p>
3	教育・研究基盤の充実	<p>(1) 基礎学力を効率的に高めるために導入した「なわてドリル(e-ラーニング)」を継続するとともに、基礎学力と SPI 能力の連動性や対象科目の変更等を検討します。</p> <p>(2) ICT の活用の 1 つとして「eBook」による図書館の充実、24 時間化を推進します。</p> <p>(3) 科研費取得目標を 300 万円とします。また、教員の科研費獲得自己学習を高めるため、獲得者に対する報奨金制度導入を検討します。</p>
4	教育・研究基盤の整備	<p>(1) 教育提携の在り方について再検討します。</p> <p>(2) 過去の公開講座(社会人リクルーティング講座、なわて保育講座、市民講座)の記録化を推進しまた、廃止予定の総合福祉コースの業績を記録する意味も込み、「シリーズ健康福祉本」を刊行・配布し、地域社会に貢献します。</p>

No	施策種類	事業計画
5	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1) 本格的な「社会人教育」(専門知識の学び直し等)の導入し地域に貢献します。</p> <p>ア 幼稚園免許取得者の社会人を対象とする「保育士特例講座」(夏季集中)を募集します。</p> <p>イ 出産・子育て等を機に離職した幼稚園教諭や保育士(潜在保育士等)に対する大東市等の研修に対する協力態勢の拡大に引き続き取り組みます。</p> <p>(2) 教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等「なわて保育学総合研究所」の活動を拡大し、地域に貢献します。</p> <p>(3) グリムソートを公開(過去のソート動画を編集・CD化)し、「音楽の四條畷短大」の文化・伝統を地域住民と分かち合う施策について引き続き検討します。</p> <p>(4) 大学(川学部・看護学部)と連携し、「認知症対策」や「高血圧対策」等の高齢者に関心のあるテーマによる地域講座を継続開催します。</p> <p>(5) 大東市福祉協議会運営の「生活サポート事業」(大東市に在住・在勤・18歳以上の学生が高齢者等と生活をサポートする)に積極的に参加します。</p>
6	内部進学	<p>(1) 学園高校向説明会で、在学生や卒業生の実体験を紹介し、各エリアの学びと就職先が具体的にイメージできるように説明に工夫し、本学に対する理解を深めます。</p> <p>(2) 高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)を構築し、学園出身者の「社会適応力」を高めます。</p>
7	進路対策・就職対策	<p>(1) 大学編入希望者の個別相談に応じた確かな支援をし、編入希望の多い大学や専門学校「編入指定校」を増やし、「大学編入」という就職以外の選択肢をアピールします。</p> <p>(2) 卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、直近情報の交換、就職・社会体験等の共有化、先輩としての助言等により、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓につなげます。</p> <p>※【ライフデザイン総合学科】</p> <p>卒業生の職場訪問を行い、近況や現場における人材養成のニーズも聞き取り、学生指導に生かしていきます。</p> <p>(3) 「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し参加者・出席率を向上させ、公務員志望・適性のある学生を支援します。</p> <p>(4) 地域の中堅・中小企業を開拓し、インターシップを通じた就職先を確保することを積極化します。</p>
8	学生募集	<p>(1) 好成績の部活動やソール入賞、公開講座等を本学HPや大東市や四條畷市の広報誌に積極的に投稿することで、本学の認知度アップに貢献します。</p> <p>(2) 保護者対象の「教育懇談会」を各学期に開催し、十分なサポート体制で対応します。ライフデザイン総合学科では、学生の就職活動に向けた保護者説明会開催を検討します。</p> <p>(3) 広報課と連携し、入学者実績に基づいて媒体・業者の委託契約を見直し効果的な学生募集を行うことで、外部入学者を安定的に確保します。</p>

No	施策種類	事業計画
		(4) 短大生活やキャリアアップのイメージ(期待・役割)の理解を深めるため、オープンキャンパス等における模擬授業や短大生の実体験紹介を増やします。
9	災害対策への取組	「危機管理マニュアル」に基づき、的確な災害対策、対応ができる体制を確立するために、短大の防災訓練を実施し、問題点を把握し改善策を検討します。
10	その他	<p>(1) コブライアンスに則った業務改善に取り組み、効率化ときめ細かい事務対応の両立を目指します。また、清風学舎と北条学舎の連携を強化し、人事異動による影響を最小限に抑え、円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。</p> <p>(2) 事務部門では、短大と大学の連携を密にし、自由な意見交換により、前例にとらわれず、事務改善を継続する加圧-を根付かせます。</p> <p>(3) 事務職員が外部のSD 啓発研修会等に積極的に参加し、ヒアリングした最新情報を教職員間で共有し、事務プロセスの改善につなげます。</p> <p>(4) 業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスク削減につなげる意識、文化を根付かせます。</p>



【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 教育理念に基く学校経営計画及び教育計画	(1) 理念・方針にもとづく教育計画の再構築	(1) 学年・校務分掌等の教育活動計画を改善します。	(1) 教職員自己評価点 4.1
	(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	(2) 教育課題に即した研修の充実を図ります。	(2) 教職員自己評価点 3.8
2 高校生としての学力及び態度・諸能力の基盤養成	(1) 主体的・能動的な学びの実践	(1)ア 基本的な知識・技能の習得のための授業改善を行います。	(1)ア 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 4.1
		イ 思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。	イ 教職員自己評価点 3.8
		ウ 対話力・課題発見・解決力等を養うための主体的・協働的な授業を行います。	ウ 教職員自己評価点 3.8
	(2) 集団・社会に貢献できる態度・実行力	(2)ア 基本的な生活態度を改善します。	(2)ア 生徒評価点 3.6 教職員自己評価点 4.2
		イ 活動・行事等を通して社会性を身につけます。	イ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9
	(3) 部活動を通して心身の鍛錬	(3)ア 自らの心身を鍛えます。 イ 部活動を通して社会性を身につけます。	(3)ア 教職員自己評価点 4.1 イ 教職員自己評価点 4.1
(4) 市民性を育む教育	(4) 市民性・主権者意識を育む教育を実施します。	(4) 生徒評価点 3.2 教職員自己評価点 3.4	
(5) 国際的資質を育む教育	(5) 研修生・留学生の派遣、受入れを実施します。	(5) 教職員自己評価点 4.4	
3 他者とともにより良く生きていくための人権感覚	(1) 自己・他者が共に良く生きようとする態度	(1)ア 人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。  イ 学級生活や活動を通し仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。	(1)ア 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9  イ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2) 一人ひとりのニーズに応じた指導	(2)A 様々な課題を抱える生徒一人ひとりに丁寧に対応し支援を行います。  イ 生徒のニーズを把握し教職員が連携して特別支援教育を実施します。	(2)A 生徒評価点 3.5 教職員自己評価点 4.1  イ 教職員自己評価点 3.7
4 未来を切り拓くキャリア教育・進路指導	(1) 未来の目標を実現する能力	(1)A 自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を行います。  イ 職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施します。	(1)A 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9  イ 生徒評価点 3.8 教職員自己評価点 3.9
	(2) 生徒の目標を実現させる進路相談・支援	(2)A 進路情報を提供し、相談・助言を行います。  イ 放課後・休業中の講習を実施し、進路指導体制を整備します。	(2)A 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 4.2  イ 教職員自己評価点 4.0
5 安心・安全な社会を築くための態度と行動力	(1) 防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	(1)A 防災・減災に向けた訓練を実施する。  イ 自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高めます。	(1)A 教職員自己評価点 4.3 イ 生徒評価点 3.7 教職員自己評価点 3.9

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 情報教室のパソコン更改	(1) 第二飯盛嶺校舎 3F 情報教室のパソコン更改(83台)	(1) 設置後5年以上経過するパソコン83台を更改します。	(1) 第二飯盛嶺校舎 3F 情報教室のパソコン更改計画(83台)20%

【教育・研究】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 AL 授業の研究と実践を推進	(1) AL 授業の研究と実践を推進	(1) AL 授業の実施に向け、研修・報告・実践の機会を提供します。	(1) 教職員自己評価点 3.8
2 ICT 教育の研究と実践を推進	(1) ICT 教育の研究と実践を推進	(1) ICT 教育の実施に向け、研修・報告・実践の機会を提供します。	(1) 教職員自己評価点 3.5

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進	(1) 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進	(1) 新学習指導要領の方向性を踏まえた教育課題の研究と課題解決に向けた活動を推進するためのチームづくりと研修・報告の機会を提供します。	(1) 教職員自己評価点 3.5

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 地域公立中学校との連携を強化	(1) 地域公立中学校の進路指導に対する協力と交流の充実	(1)ア 地域公立中学校の要請にもとづく出張授業及び高校説明会への協力を行います。  イ 地域公立中学校の要請にもとづく高校体験学習を受入れ協力します。	(1) 本校の都合がつかない限り積極的に協力します。
2 部活動を中心とした地域社会の活動に貢献	(1) 部活動を中心とした地域社会の活動に対する協力と交流の充実	(1)ア 部活動を中心とした地域の学校・福祉施設での演技・演奏の協力実施と交流を行います。  イ 保育コースを中心とした地域の幼稚園・保育所等での演技・発表の協力実施と交流を行います。  ウ 部活動を中心とした地域の交通安全・人権啓発・記念行事等での演技・演奏の協力と実施を行います。	(1) 本校の都合がつかない限り積極的に協力します。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 生徒募集対策の強化	(1) 募集・広報体制の整備	(1)ア 人員・組織を整備します。  イ 活動計画を立案し、実施します。  ウ 活動予算の立案と効果的に実施します。	(1)ア 教職員自己評価点 4.0  イ 教職員自己評価点 4.0  ウ 教職員自己評価点 3.8
	(2) 募集・広報戦略の改善	(2)ア 募集の方法・手段・時期を効果的に設定します。  イ 活動対象に応じた戦略を立案し、実施します。  ウ 活動内容・プログラム・PRポイント・提供情報を工夫します。	(2)ア 教職員自己評価点 4.2  イ 教職員自己評価点 4.0  ウ 教職員自己評価点 4.0
	(3) 教育の特色の明確化	(3)ア 各コースの特色強化と実績の向上を図ります。  イ 教育活動を充実させ、生徒の成長に繋がります。  ウ 教育理念に即した人を育てる教育を実践します。	(3)ア 教職員自己評価点 4.0  イ 教職員自己評価点 4.0  ウ 教職員自己評価点 4.0

【その他】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 内部進学	(1) 中高連携の強化 ア 中高連絡会議の充実 イ 内部進学増加のための具体的方策を実施 ウ 高校の魅力ある教育の新たな実施を検討	(1)ア 会議の回数増加により連携の充実に図ります。  イ 説明会及び模擬授業を工夫します。  ウ 特進の改善と準特進クラス設置を検討します。	(1)ア 教職員自己評価点 3.8  イ 教職員自己評価点 3.8  ウ 教職員自己評価点 3.8
	(2) 高短連携の強化 ア 高短連絡会議の充実 イ ライ学科進学増加の説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ウ ライ学科進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	(2)ア 高短連絡会議の充実に図ります。  イ 魅力ある説明会・体験授業等を実施します。  ウ ライ学科と連携した進路学習を実施します。	(2)ア 教職員自己評価点 3.8  イ 教職員自己評価点 3.8  ウ 教職員自己評価点 3.8
	(3) 高大連携の強化 ア 高大連絡会議の充実 イ リハビリ・看護進学増加の説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ウ リハビリ・看護進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	(3)ア 高大連絡会議の充実  イ 志願者増加に向けた魅力ある説明会・体験授業等の実施  ウ 大学と連携した進路学習の実施	(3)ア 教職員自己評価点 3.8  イ 教職員自己評価点 3.8  ウ 教職員自己評価点 3.8
2 進路指導の実績向上	(1) 国公立大学合格者増		(1) 国公立大学合格 5 名
	(2) 有名私立大学合格者増		(2) 有名私立大学合格 30 名
	(3) 学園大学合格者増		(3) 学園大学合格 15 名
3 災害対策の強化	(1) 防災訓練の充実	(1) 地震・火災等状況に応じた防災訓練を実施します。	(1) 教職員自己評価点 4.0
	(2) 教職員の安全・防災意識の向上	(2) 地震・津波・豪雨・台風等さまざまな自然災害に対する防災意識の向上を図ります。	(2) 教職員自己評価点 3.7

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
4 リスク管理体制の強化	(1) コンプライアンス管理体制の整備	(1)ア 法令遵守意識・人権意識の浸透を図ります。  イ 教職員行動規範の浸透を図ります。	(1)ア 教職員自己評価点 4.0  イ 教職員自己評価点 4.0
	(2) リスク管理体制の整備	(2)ア リスクを未然に防止する意識を向上させます。  イ リスク報告の徹底と迅速・適切な対応を図ります。  ウ リスク発生の防止体制を改善し、整備します。  I リスク防止・リスク対応が可能となる職場環境を整備します。	(2)ア 教職員自己評価点 4.0  イ 教職員自己評価点 4.0  ウ 教職員自己評価点 4.0  I 教職員自己評価点 3.8

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1)私学の独自性	<p>(1)ア 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践します。</p> <p>イ 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話し、理解を深めます。</p> <p>ウ 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。</p>	<p>ア 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が 4.4 です。</p> <p>イ 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明します。 (28年度生徒 3.9)</p> <p>ウ 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。</p>
	(2)生徒のニーズに対応したコース制	<p>(2)ア 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。</p> <p>イ 英数発展コースは、夏期講習や3年の土曜日午後の授業で応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応えます。</p> <p>ウ 6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成します。</p>	<p>(2)それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、</p> <p>ア (平成28年度 生徒 4.1 保護者 4.0)</p> <p>イ (平成28年度 生徒 4.2 保護者 4.4)</p> <p>ウ (平成28年度 生徒 3.8 保護者 4.2)</p> <p>全コースの平均 平成29年度 4.1 です。</p>
	(3)進路指導	<p>(3)ア 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行います。</p> <p>イ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行います。</p>	<p>(3)ア 生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンス(平成28年度 4.0)を行います。</p> <p>イ 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっています。 目標値はクリアしていますが、4.5以上を目指します。</p>

【学習指導・人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)教科指導	<p>(1)ア 各教科は基礎・応用を徹底的に行うため、年間を通じた教育計画を立て、シラバスに沿って指導します。</p> <p>イ 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行います。</p> <p>ウ 学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施します。</p>	<p>(1)ア 教員によるシラバスに沿った指導の目標を 4.3 にします。(平成 28 年度 4.2)</p> <p>イ 教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.5 にし、(平成 28 年度 4.3)生徒・保護者による授業は分かりやすいか。 (平成 28 年度 生徒 3.9 保護者 3.8)との開きが大きい、生徒保護者の目標値を 4.2 以上に設定します。</p> <p>ウ 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。 (平成 28 年度 4.3)生徒・保護者による学校の学力向上への努力の数値がほぼ一致していますが(平成 28 年度 生徒 4.0 保護者 4.0)それぞれ 4.3 以上を目標とします。生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(平成 28 年度 生徒 3.7 保護者 3.7)4.0 を目標とします。</p>
2 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)人権教育	(1)ア 人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。	(1)ア 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践していますが(平成 28 年度 4.2)昨年より 0.1 ポイント下降しています。



中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>イ いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアクト」を実施し、人権意識を育てます。</p> <p>ウ 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行います。</p> <p>イ 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施します。</p>	<p>イ 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(平成28年度 生徒 3.7 保護者 3.8)と低い、目標は4.0以上と設定します。</p> <p>ウ 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(平成28年度 4.2)</p> <p>イ 人権講演や道徳的な行事については(平成28年度 生徒 4.3 保護者 4.0) 保護者の満足度が低い。</p>

#### 【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。	(1)生活指導	<p>(1)ア 基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせます。</p> <p>イ 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動・シアガート運動を実施します。</p>	<p>(1)ア 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は4.5以上(平成28年度 4.5)であったが、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導(平成28年度 生徒 4.2 保護者 4.1)差0.5を縮めることを目標とします。</p> <p>イ (平成28年度 生徒 3.7 保護者 3.9)と昨年より評価が0.3ポイント上がったが生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)危機管理と情報公開	(2)ア 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざします。  イ 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行います。	(2)ア 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備(平成 28 年度 4.1)及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は(平成 28 年度 4.1)4.5 以上の目標が必要です。  イ 情報公開については、保護者の満足度が低く、(平成 28 年度 生徒 3.9 保護者 3.9)4.2 以上を目指します。
	(3)学校行事や部活動	(3)ア 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励します。  イ 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒トレーニングなど多彩な行事を充実させます。	(3)ア 説明会やガイダンスなどで、クラブ活動の参加を奨励します。(平成 28 年度 生徒 4.1 保護者 4.1)  イ 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てます。(平成 28 年度 生徒 4.3 保護者 4.4)
	(4)課題を抱えている生徒への支援	(4)ア 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行います。  イ 問題解決の部署として ICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努めます。	(4)ア 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっています(平成 28 年度 4.3)  イ 生徒の個人面談等の満足度は低い。(平成 28 年度 生徒 3.8)両方とも 4.2 以上を目標とします。

#### 【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献	(1)保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。	(1)ア 保護者と協力し PTA 活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援します。  イ 復興支援やボランティア活動等で地域に協力します。	(1)ア 保護者から見る PTA 活動は(平成 28 年度 保護者 3.9)目標値レベルです。  イ 生徒から見る生徒会活動は(平成 28 年度 生徒 4.2)と昨年より 0.1 ポイント上昇しました。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 生徒募集対策	(1)外部入試説明会は、新しい内容を取り入れさらに充実を図り、より多くの受験者の確保に努めます。	(1) 生徒によるクラブ紹介やプレゼンを実施します。	(1) 第4回説明会参加者数 350名以上を目指します。
	(2)小中連絡会などを通じて内部小学校との連携充実に努めます。また内部進学者数の増加に努めます。	(2) 中学校紹介・進路相談コーナーなどを設置し、公開授業・体験授業などへの児童の参加を勧めます。	(2) 内部進学者 70名以上を目標とします。
	(3)中高連絡会などを通じて内部高等学校との連携充実に努めます。	(3) 各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するように努力します。	(3) 内部高校への進学者 70名以上を目標とします。
	(4)中高6年一貫コースの生徒募集を強化します。	(4) 他私立学校にないキャリア教育・総合学習の内容を内外の説明会等で発信します。	(4) 35名の入学者を目指します。
	(5)3年コース(英数・英数発展)の高校進学実績の外部評価を維持します。	(5) 今後も継続して進学指導の強化に努めます。	(5) 安定した募集を目指します。
	(6)ホームページの充実	(6) 受験生、保護者等に四條畷学園の魅力をわかりやすく伝えます。	(6) 本学の教育の特長を説明する等ホームページを充実させます。また、Facebookによる情報発信を一層充実させます。
	(7)募集定員の変更	(7) 6クラス募集から5クラスへ変更のため、185名募集を175名に変更します。	(7) 定員充足を目標とします。

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 選び抜いた内容の実践と改良	(1) 「指導要領プラス」をコアとしたカリキュラム・教材/教具を模索、実践しその効果を検証します。	(1)ア 公開授業研究会を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。  イ 指導要領にプラスした独自性のある学習プログラム開発します。	指導力向上に関する教員自己評価を 4.3 以上にします。(平成 28 年度 4.3)
	(2) 5・6 年生の英語カリキュラムと教材を開発します。	(2)ア 現在まで行われてきた 3~6 年生のカリキュラムと教材を精選し、2~4 年生用に再編します。  イ 5・6 年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。  ウ 英語科教科研究部を立ち上げ、複数教員による英語科研究体制を構築します。	
	(3) 道徳教育の充実を図ります。	(3) 教科道徳への移行をふまえ、週 1 回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。	
2 学校行事の見直しと改良	(1) 全校行事を改良します。	(1) 保護者や児童の意見をもとに、体育会や秋祭りに改良を加えます。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。
	(2) 宿泊行事を見直します。	(2)ア 修学旅行の行き先と行程を変更します。  イ 林間学校を自然学校に変更し、縦割り活動を中心とした行事に改良します。  ウ 5 年生希望者に琵琶湖カヌー体験スクールを導入します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3 基本的な生活習慣の育成	(1) 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。	<p>(1)ア 児童自身が校内のマナー向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化を図ります。</p> <p>イ 児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催の挨拶運動を奨励します。</p> <p>ウ 「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。</p>	<p>(1)・主体性に関する教員自己評価を 4.1 以上にします。(平成 28 年度 4.1)</p> <p>・保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動がんばっている」の評価を向上します。</p>
	(2) 規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	<p>(2)ア 特に言葉づかい、時間遵守、姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。</p> <p>イ 登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。</p> <p>ウ 校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。</p> <p>エ 年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。</p> <p>オ マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。</p>	<p>(2)・マナー・モラルに関する教員自己評価を 4.3 以上にします。(平成 28 年度 4.3)</p> <p>・保護者、児童アンケートのうちしつけに関する 3 項目の平均(4.0 以上)を維持します。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
4 基礎学力の徹底	(1) 国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。	<p>(1)ア 「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図ります。</p> <p>イ 「書くこと」を意識した授業を全校に導入し、児童の書いたノート、WS 類を校内研究会で研究の対象にします。</p> <p>ウ 統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努める。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p> <p>エ 読書活動を励行し、「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことを意識した指導を行うことで、語彙を増やします。</p>	<p>(1) ・学力向上に関する教員自己評価を 4.5 以上にします。(平成 28 年度 4.5)</p> <p>・学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>
	(2) 国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。	<p>(2)ア 低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。</p> <p>イ 「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙を増やします。</p> <p>ウ すべての教科で、聞き取ったことを対したりノートに取ったりする活動を増やします。</p> <p>エ 児童が最後まで集中して聞いているかどうかを第三者に評価してもらい、評価を受けます。</p>	<p>(2) 学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(3) 教員の指導力向上をはかります。	(3)ア 多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。  イ 学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。	(3) 計画的な教員研修に関する教員自己評価を 4.1 以上にします。(平成 28 年度 4.1)

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 教育環境の充実	(1) 学校の美化に全校で取り組みます。	(1)ア 児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。  イ 児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。  ウ 児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。  I 職員室の機器管理を徹底し、業務の効率を上げます。	(1)・美化に関する教職員の自己評価を 4.0 以上にします。(平成 28 年度 3.9) ・保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。

【安全対策】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 安心、安全な学校づくり	(1) 児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。	<p>(1)ア 一般防災に関する対策</p> <p>(ア) 防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。</p> <p>(イ) マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。</p> <p>(ウ) 緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。</p> <p>(I) 緊急時の一斉配信システムを整備します。</p> <p>(オ) 宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。</p> <p>イ 不審者等の危機管理</p> <p>(ア) 不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。</p>	(1) 「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を向上します。
	(2) 児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。	<p>(2)ア 「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。</p> <p>イ 外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います(四條畷警察・安全教室、NTT 安全Eメール教室等)。</p>	(2) 防災や安全に関する教員自己評価を 4.0 以上にします。(平成 28 年度 4.0)



【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 安心、安全な学校づくり	(1) 防災対策を強化します。	(1)ア 火災、地震等の防災係を組織します。 イ 防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。 ウ 不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。	(1) 「防災や安全に関する安全対策」の教員自己評価を 4.2 以上に向上します。

【児童募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 内部連携を強化し募集活動を充実	(1) 幼稚園との連携を強化し募集活動を充実します。	(1)ア 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 イ 保護者対象の公開授業や説明会を実施します。 ウ 幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。	(1) 28年度は、幼稚園内部進学者41名でした。 今年度は、内部進学者45名以上を目標とします。
	(2) 中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	(2)ア 連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。 イ 中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。 ウ 内部進学の見学指導を強化します。	(2) 28年度は、中学内部進学者55名(61%)でした。 今年度は、内部進学者70%以上を目標とします。
	(3) 募集活動を検討します。	(3)ア 児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。 イ 入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。 ウ 広報媒介を検討します。	(3) 28年度は、入学者102名でした。募集定員90名は、充足しました。今年度も募集定員が充足するように努めます。

【園全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 心身の健全な成長を促し、豊かな人格形成の基礎を培います。	(1) 健康で明るく活発な子ども・自ら考えて行動できる子ども・思いやりと優しさが持てる子どもに育てます。	(1) 自由遊び・体操・かけっこなどを通して体力を培い、時間の流れに応じて考えて行動できる力を培い、困っている友達に気づき優しくできる力を培います。	(1) 教職員自己評価点 4.2
2 感謝の気持ちを培います。	(1) 感謝の気持ちを持てるような環境を整えます。	(1) 「ありがとう」の文集作りや勤労感謝の日には働く人に感謝の気持ちを持てるようにします。	(1) 教職員自己評価点 4.2
3 基本的な生活習慣の形成と規範意識を高めルールを守る態度やマナーを身につけます。	(1) 基本的な生活習慣の確立を図ります。  (2) 集団生活に必要な態度を培い、マナーを身につけます。	(1) 挨拶・衣服の着脱・食事・排泄を身につめます。  (2) きまりを理解しルールを守れるようにします。	(1) 教職員自己評価点 4.2  (2) 教職員自己評価点 3.9
4 教育課程を通して積極的に取り組む態度や友達と助け合い協力する態度を身につけます。	(1) 積極的な行動と友達と協力できる態度を培います。	(1) 運動や遊び又、読む、書く、数えるなどみんなと一緒に喜んで取り組み、意欲を高めます。	(1) 教職員自己評価点 4.0
5 一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に応じた指導をします。	(1) 子どもの個性・発達・特性に応じた丁寧な指導の充実を図ります。	(1) 活動の場面ごとや、子どもの個性を理解し、見合った丁寧な指導をします。	(1) 教職員自己評価点 4.1

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6 子育て支援の充実を図ります。	(1) 早朝預かり保育・預かり保育の充実を図ります。	(1) 異年齢の交流で良好な人間関係を育てます。	教職員自己評価点 4.2
	(2) 安心して預けられる保育体制を整えます。	(2) 7:00~18:30 まで子どもが安心して過ごせるようにします。	

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 安心・安全な教育環境の整備と子どもの活発な活動を促します。	(1) 子どもが安心して楽しく生活をし、興味や関心が高まるように環境を整えます。	(1) 保育室の環境を整備し充実に努めます。 ア 保育室の教育環境で目的にあった教材を整えます。 イ 絵本・紙芝居を豊富に揃えます。 ウ 安全について関心を高め、積極的に運動や遊びができるように整えます。 エ 食べる喜びを感じ、食の大切を知らせます。	(1) 教職員自己評価点 4.2
	(2) 安心な教育環境整備の充実に努めます。	(2) 教材・遊具・用具を利用して活発な行動を身につけます。又、課外教室の充実を図ります。	(2) 教職員自己評価点 4.2
	(3) 自然や社会に触れる環境を整えます。	(3) 自然・社会環境の充実を図ります。 ア 植物や野菜の栽培をします。 イ 飼育を通して、命の大切さに気づかせます。 ウ 園外保育で公共の施設を知り視野を広げ色々な人との触れ合いを大切にします。	(3) 教職員自己評価点 4.0
	(4) 安全教育・防災教育の推進に努めます。	(4) 安全教育・防災教育を実施し、理解を深めます。 ア 登降園の安全対策とマ-教育をします。 イ 防災・避難訓練を実施します。 ウ 怪我の予防対策・感染予防に努めます。	(4) 教職員自己評価点 4.4

【教育・研究】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 教育・研究環境の充実を推進します。	(1) 教育環境の整備・充実を図ります。	(1) 安心して楽しく生活し、子どもの興味・関心が高まる保育環境を整えます。	(1) 教職員自己評価点 4.0
2 教育・研究基盤の整備を図ります。	(1) 教職員の資質向上を図ります。	(1) 園内・外部研修会の推進と実施を図ります。	(1) 教職員自己評価点 4.0
	(2) 教育力の充実を図ります。	(2) 教職員の連携と協力の強化を図り情報を共有し合います。	(2) 教職員自己評価点 4.2
	(3) 学年目標の明確化を実施します。	(3) 目標達成となるよう意見会を実施します。	(3) 教職員自己評価点 4.3
3 研修の充実と運営体制の充実に努めます。	(1) 研修会参加の充実と向上を図ります。	(1) 目標を設定し研鑽に努めます。	(1) 教職員自己評価点 4.4
4 保護者と連携した教育活動を実践します。	(1) 保護者の気持ちに寄り添い、連携して子どもの育成を図ります。	(1) 保育参画の推進を充実させます。	(1) 教職員自己評価点 4.2
	(2) 保護者の対応は丁寧に実施します。	(2) 細やかに手紙や電話で対応し、保護者の信頼度が高まるように努めます。	(2) 教職員自己評価点 4.3

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 社会貢献、文化活動の推進を図ります。	(1) 保護者・地域住民へ情報提供し、教育活動の支援と奨励に努めます。	(1) 楽しめる行事の案内と推進を図り、また、子どもが進んでできる10キップ運動を継続します。	教職員自己評価点 4.0
	(2) 子どもの育ちについて、公立小学校への協力と充実に努めます。	(2) 幼保小合同連絡会に参加し、協力を図ります。	
2 保護者・地域と連携した教育活動を行なう。	(1) 保護者との密な連絡と連携を図り、豊かな教育活動に努めます。	(1) 子育て相談・談話会・見学会・園庭開放の普及を図り、実施します。	(1) 教職員自己評価点 4.0

【園児募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 内部進学 の充実を図 ります。	(1) 内部進学強化 と推進を図り ます。	(1) 小学校と連携し、連絡会などを通して教 育活動の理解と園児の受験対策に努めます。	(1) 教職員自己評価点 4.0
2 募集活動 の充実を図 ります。	(1) ホームページなど を活用し、募集対策の 推進と充実を図り ます。	(1) 幼稚園の参加行事への案内や園見学会 を実施し、保育内容の普及を図り、賛同に繋 げます。	(1) 教職員自己評価点 4.0
3 就園前 の幼児教育を 実施します。	(1) 年齢幅を広げた 活動の実施と充実 に努めます。	(1) 教室を開講し、充実した教育活動を行な います。 ア 0~1 歳児の場所提供と他機関の協力を行 ないます。 イ 2 歳児教室の環境整備と充実を図り保育 内容に沿った企画を行ないます。 ウ I7サライの無料体験教室の充実を図り実施 します。	(1) 教職員自己評価点 4.2

## 主な新規事業計画

### 【法人本部】

No	事業名称	事業概要
1	短期大学清風学舎エレベータ改修工事	ワイヤー交換等実施
2	フロンガス定期点検 ①ガス空調設備 ②電気空調設備	①・大学リハビリテーション学舎 ・短期大学清風学舎 ・大学看護学部学舎・幼稚園園舎 飯盛嶺校舎 ②・中学校校舎 ・高等学校本館、東館、総合ホール
3	飯盛嶺校舎・看護学部学舎・幼稚園園舎 ガス保守	大阪ガスと保守契約の締結
4	温水プールトイレ改修工事	男女トイレ洋式化工事の実施
5	温水プール改修工事	鉄板屋根塗装工事の実施
6	短期大学清風学舎改修工事	漏水補修工事の実施
7	中学校校舎改修工事	漏水補修工事の実施
8	ガス空調メンテナンス	ガス空調設備のメンテナンス実施
9	圧着機更改	圧着機買い替えの実施
10	サーバ更改	統合等による更改実施

### 【大学】リハビリテーション学部

No	事業名称	事業概要
1	標準型骨格モデル増設	運動療法実習室、国家試験対策用の部屋に設置
2	徒手筋力計モービィー、ピンチセンサー等購入	作業療法評価・運動学実習等で使用する機器の購入
3	学習支援室設置	学習支援室設置に伴う工事の実施
4	新倉庫設置什器購入	保管資料の増加に伴い、倉庫を新設し、必要な什器を購入

### 【大学】看護学部

No	事業名称	事業概要
1	男子ロッカー増設対応	男子の学生数増加対応

【短期大学】

No	事業名称	事業概要
1	乳児モデル購入	乳児7～10ヶ月モデル購入（こどもの保健で使用）

【高等学校】

No	事業名称	事業概要
1	PC 教室機器更改	PC 教室に設置している PC、プリンタ等の機器の更改
2	家庭科用マシン増設	クラブ等での利用者数増に伴う増設の実施
3	図書館備品購入	生徒用カバン置き、シュレッダー設置
4	フレンチホルン購入	吹奏楽部用購入
5	卓球台増設	卓球部での需要増に対応するため卓球台増設
6	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願）の導入

【中学校】

No	事業名称	事業概要
1	教員用タブレット PC の購入	教員用のタブレット PC 購入
2	学校日誌・出席簿のデジタル化対応	教員の負担軽減のためのシステム導入
3	楽器購入	吹奏楽部が使用する楽器（トランペット、ホルン等）の購入
4	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願、合否照会、入学金振込）の導入

【小学校】

No	事業名称	事業概要
1	マグネットスクリーン導入	全学園の教室にマグネットスクリーンの導入
2	机・椅子の買い替え	5年生全員の机・椅子の買い替え
3	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約）の導入

【幼稚園】

No	事業名称	事業概要
1	WEB 出願システムの導入	WEB 出願システム（資料請求、イベント予約、WEB 出願、合否照会、入学金振込）の導入
2	園児用椅子の入れ替え	園児用椅子の買い替え